

# 作品返却への気配り



いよいよ1年間の仕上げの年度末です

1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」、と言われるように、気がつけばもう3月…。新米先生も1年が過ぎ、仕事にも子どもたちにも慣れ、自信がついてきたのではないのでしょうか。

年度末の仕事は、指導要録への記載や通知表の作成の他に、クラス替えの事務等、普段の学期末よりも事務量が増えます。一方で学習指導や生活指導もまとめの時期に入り、6年生を送る会や卒業式等の学校行事も目白押しになります。

いつもよりも忙しさが倍増する中で、教室の掲示物はずし、今までためていた作品もすべて子どもに返却する時期となりました。作品返却ひとつにも、工夫できることや気をつけなければならぬことがたくさんあります。その中のいくつかをご紹介します。

## 自分自身の1年間を振り返って

4月当初から書きためてある作文や観察カード等の作品には、子どもたちの1年間の成長が見られます。同時に、教師の指導の在り方も振り返ることができます。1年間の指導の成果と課題を、子どもと一緒に振り返りましょう。自分にどんな力がついていたのか、どんなところが成長したのか、また、課題はどんなところかを、年度末の作品返却時に改めて見つめたいものです。

作品返却のポイント

## ○教師のコメントをつけて

個人の作品には、教師のコメントをつけて「来年度の学習への意欲づけ」や「学習成果や過程の良さ」を記入します。

成果だけではなく、過程の頑張りも書いてあげるといいでしょう。そうすることで、子どもたち一人ひとりに目を向けてくれているという安心感や信頼、次への頑張りにつながります。

ただし、年度末は大変忙しいので、どの作品にコメントを入れたら有効なのか、どれがスタンプ等の検印のみでいいのか、取捨選択することも必要です。私も新米先生の頃に、やる気十分で頑張ろうとして、結局は山積みになってしまったプリント等その後悔しながら、機械的にスタンプを押し、どんどん返却してしまった苦い経験が何度あったことか…。

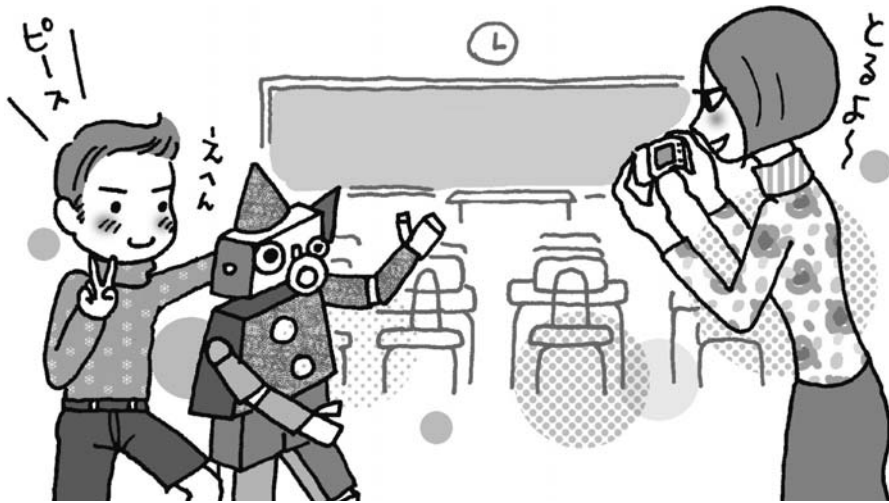
## ○大きな作品は記念撮影

立体作品や大きな作品は、返却日時を事前に連絡し、持ち帰りやすいように大きな袋を用意してもらいましょう。

以前、3年生の担任をした時、段ボールを使った工作で、大きなロボットを上手に作ったA君が、作品をなかなか持ち帰りませんでした。私が「上手にできたんだから、持ち帰っておうちの人に見せてあげたら」と促したところ、「上手にできたから、持ち帰りたくないんだよ。持ち帰る時に壊れるだろ。しか

それいけ!

# 新米先生



も、うちの母ちゃん、大きな作品は部屋がせまくなるからって、すぐ捨てちゃうんだもん」とつぶやいたA君。そこで、デジタルカメラでA君と一緒に作品をパチリ。A君は納得して作品を持ち帰りました。

立体作品や大きな作品は、持ち帰る際に壊れてしまったり、家庭の事情によってはすぐに捨てられてしまったりすることがありますが、写真1枚なら邪魔にならないし、記念にも残りますね。

## ○ 記念になる工夫を

図工の作品は、大きな画用紙を2枚貼り合わせて、上に紐で持ち手を作って作品袋を作り、作品をその中に入れてあげたり、絵を貼り合わせて、きれいなリボンで綴じて絵画集を作ってあげたりしても記念に残ります。

国語で書いた作文や詩も板目紙で表紙を作り、綴じ紐でとめて作文集や詩集として残しておく、子どもたちの1年間の成長の足あとになるし、良い思い出にもなります。表紙をイラストで飾ったり、作文や詩にカットを載せたりすると雰囲気が出ます。

## ○ 個人情報の保護は確実に!

作品返却時に特に気をつけなければならぬこととして、「個人情報の保護」があります。最近、個人情報の取り扱いが非常に厳しくなっています。担任が握っている個人情報は、実にたくさんあります。子どもたちの丸つけや添削も原則、自宅に持ち帰らず学校で処理するようにします。そして、子どもたちの手元に確実に返却しましょう。また、担任が持っている名簿や連絡網、評価資料等は、年度末にシュレッダーにかけるなど、確実に処分することを心がけましょう。

## 教室もきれいに

3月に入ったら、時間を見つけて教室の自分の机の引き出しやロッカーの中、書籍等の

整理をしておきましょう。備品は使用前よりきれいに引き継ぐのがマナーです。

以前、自分が引き継いだ教室に、学級目標の掲示物が貼ったままだったり、教師の机の引き出しの奥に丸まった子どももののプリントが残っていたりして、とても残念な気持ちになった経験があります。「立つ鳥あとを濁さず」の気持ちで床のワックス等もしっかり塗って、掃除の必要がない状態で引き渡すのがベストです。余裕をもって片付けをしておけば、ロッカーの奥から子どもたちの作品が出てきて処分にも困ることはありません。

学級目標などの大きな掲示物をはがすのは、最後の日の演出にはいかがでしょうか。

学級の解散式の後、みんなで作りにてきた教室掲示物がはがされてガランとした教室を見て、子どもたちは寂しさを感じるとともにクラスの思い出を振り返ることでしょう。

## すばらしい仕上げを

あと少しで1年間一緒にいた子どもたちもお別れです。3月の半ばを過ぎて、「もっと早くしておくべきだった...」「もっとこんなことをしてあげたかった...」と後悔しないために、また子どもたちにとっても担任にとっても思い出に残る1年間だったと思えるように、すばらしい仕上げを演出していきたいですね。子どもたちの気持ちが高揚している3月です。新米先生も熱い気持ちを伝え、気持ち良く仕上げができるようラストスパートです!